

第217号 内容紹介

1 , 米がイランの力を認めた戦争終結の合意

14項目の覚書は、米国が敵対政策を終わらせ、制裁を緩和し、イランの核需要を承認し、地域同盟網を交渉主体として扱い、再離脱を防ぐ制度を作るなど、イラン側の“構造的勝利”といえる内容になっている。

2 , イラン軍指導部が米イスラエルの侵略にたいする戦略的勝利宣言

イラン軍と革命防衛隊指導者が、米国との戦闘停止調印を前に各々声明。侵略を撃退し、敵は目的を達成できず停戦を求めた、「抵抗の枢軸」は一步も退かず、国家防衛への揺るぎない姿勢を示したと強調。現地紙の報道。

3 , 山崎圭一「ゼレンスキー大統領の「別の顔」について証言紹介」

ウクライナのゼレンスキー大統領の、われわれが知る顔とは異なる「別の顔」があることを証言する元側近のショッキングな動画を視聴したので、紹介する。

4 , NPT 再検討会議での非同盟グループの主張

世界人口の70%を占める非同盟運動(NAM)を代表して議長国のウガンダが行った一般討論。核兵器廃絶の立場にたって6条の軍縮義務の履行や核抑止論の放棄などを保有国にもとめる原則的な主張を展開している。

5 , 世界はアメリカを最大の脅威とみなし、中国に好意的

EUが支援する「民主主義連合」という団体が毎年おこなっている世界規模の世論調査の結果。最大の脅威は中国としたのは日本だけで、特異な日本の世論状況が浮き彫りになっている。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます（[aala news の編集日記 \(livedoonar.jp\)](#)） なお紹介している論考は学習資料であり、内容の全部も一部も日本 AALA の見解や立場を反映したものではありません。